



15
1198
1



刻南留別志序

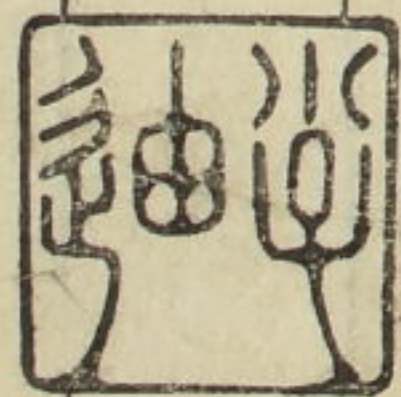
人之讀書患苟過也讀而弗記記而弗思思而弗得五車雖多亦奚以為天神氏地神氏悠遠不可知焉自人皇以來亦數千年世變風移人去物亡古之所有今不必有今之所無古不必無雖載籍所記過差紛紜疑滯

不通者不可得而考矣觚之不觚誰
昔然矣徂徠先生著南留別志南留
別志者邦語懸斷辭也書中句末多
此語因命焉斯書懸斷疑事無近遠
無細大不為次序隨其意所發而錄
之實漫筆也說有有據者亦有無據
者其有據者博覽不苟彼此相照比

類取徵也無據者淹貫古今通達事
情思而得之厭服人意也世所迷惑
一悟瞭然矣其意雋永有味其辭雅
健可觀覽者開卷絕倒歎賞不能自
已焉雖是小作足以解世俗之膠固
而弘學者之意思矣書舊六卷其一
卷門人持去為火所燒為可惜矣初

南宮別志序
屬未定祕而弗輕傳人書賈竊寫而
徧於闕闕觀其所傳錯脫紕繆不可
勝數也而既墮于坊間無如之何已
故惠今取先生手澤稿本輒不自揣
刪定校正而上木焉唯恐未精耳先
生又有和歌世詁一卷採和歌數十
首評之亦雖一短書長情有趣使人

起意矣以其俱國字故附于此焉草
稿二本間有異同今從其善者也
寶曆辛巳年夏五月雲藩文學字惠
謹撰





6, 12, 23

徂徠先生南留別志卷之一

門人 南總 宇惠 校訂

一名繁子純をさるゑ茂越めちとと
あはハ音なる

一 朝の字を或ハあき或ハもととよ
むるハ或ハ公武とてかりり或ハ上
下とて異なる事とや強んソハ例



るやうなる——義朝の子朝長阿事
に孝亦上下あ孝をもつかたるま
ふ家武家といふるハ強き者以て
のるやうなる

一義經記に白拍子をかきけるといふ
る阿事あ——白拍子の阿事
かきけるといふ水白拍子に

昆明池潁川嚴陵嚴實乃水ある
なりといふねるうといふ

一論語を圓珠經といふハお山に僧
の云む——るやと思ひ——に骨ある
お話に——これ博士の家に詞なる
阿——圓珠の——ハ皇侃の序
あるといふ

一 其經記は清水をてはて衆經をえ
あひるる子并慶る甲のおるる經
のゑのちやうのゑのちやうのちのち
低なり思ひ一子以後の衆經
經の語を求めけり字とに律
子けりてつけおるるもすもやう子
定道するおるる甲の音しの音

そて二ふあるりよさうて満堂
の人の感み堪るるるるのいあら
かーけはまてい何るも風雅なる
をちのちりる

一 其の子の剛臆といふおの
奥州より甲乙の座を定めたるよ
里松より甲乙人よりよきより

けさるなりと一又樂の平調を
干といひて聲のそとをみつるも
干の字のな倅より三線のかへ
しけ字なりと物のかつといふは
甲乙を合年といふなり
一完をさつと讀み其の誤なり肉の古
字なりけは達のるゑなりと一

一木を帶木と云ふなりといふ俗語を
かゝるなりと云ふなりと云ふなり
至陰陽師をわんといふなりと云ふなり
さひのひきえは通なり
一下を人をさるなりといふハ律り仰
毆をさるなりとの相のゆゑなり
木をさるなりと下を人とも付て

つけるものの死すれは人々を救する
あるを誤りて抵死するものなり
なり

一花押を判といふハ判署といふもの
あるを誤りてなるなり判といふハ
日と何を置て後にお加ふるをいふ
署ハこの名なりなり

一花押ハ名を草子かきけるなり花
押の上ハ姓をかくるなりとこの
むす何やまりて名を草をかきなり
庭訓にもあるなりこのむす人
面く私印を印も官印なり故
なり古ハ官印何は一官府につ
なりてハなり是を月日のふり

一 於て面ハ花押なり官の
書も皆おる役のかくる
所ハりと面くは草より後
かくと花押よりなり

一 改易といハ戸籍を改易する
遷徙罪のするを賊盗律の移郷
といふなり

一 追放といハ剽擄のせの
一 算書子とて家を相續する
於朝つよを始まるは家のゆ
さるなり

一 かしらはむろのをとい
りてさるるなり
るなり歌ハ管杖の罷のる

いづる管杖ハ荊棘をくつくるもの
木とありといふなる一
一層ふふ印ウ之服一なる可子髪
とる阿をる帽子きせと有て月
額の沙布き一されとも西の法
師ハ月代の痕といふものとあり
里中刺のりなるふや

一軍陣の標をかくハ角なり角ハ銅
角とて銅よりも作里又 衆勢角とて
からういふとも有るなり

一犬追物子あ後た太の騎射あり
古き事とて用なるなり賀茂の
勅使ハ履をたきなりから馬よれる
古の燈ハ唐燈なるなり古の鞍

田舎に多しつる所多くあり輪高
く唐鞍子似る物あり茂つる幼
き時上総國の民家多く多くえ
り

一白張服の名なり白丁人をいふ
なり

一平山の木多しつるを目鷄毛といふ

一白め黒め赤といふ地名阿多
めくろを妻驕といふといふれ
とも目驕といふといふ一は目
驕目驕目驕皆名馬の名といふ
一は地子名つけるなる一は武將
野みは目かたる馬を生やるもの
一はつるの魚といふものなり

るを大鑑めはめかこくをなかり目
をとつけてえ^カ身^こを^ぜするにあら
ず

一、重名子、弟王春王、兎王、ちきり、つる
古ハニ、在王、みせ王、ちきり、の姓を賜
ハハ、ちきり、ハニ、服して、賜り、ゆるな
る、ハニ、重部、の時、ハニ、ちきり、諸王、なれ

いへ王を稱するが人の家をも
稱するなりと思はる

一社をたふさむるにやあらざる
とていひたるなり。一姫古曾宮
の神も阿るなるを見たりとよ
むもかみとらるゝもいふゆゑなり
又杜をたふさむるに社の字を誤

ねるなる——森の歌み多くま
なはと清里

一てにをいさうのるハ歌まの詞
阿らも博士のあまをさる詞なり
とさうハ島いふものハ端語子本
つきて佐里出やり端語に仁ハ将
来——るハ諸事のえまなれ里

てにをいさ云習いやるた——めな里
一原氏物語子むハのまらやい——
ハ交刺さいる琴のまなりむハ微
の名なりたちそむき破字とむき
る本阿らハ琴すこわく後あら
ぬ人のさるるまな里

一琵琶のうんぢあをうんぢんそいふ

いやき詞なりきし人何まか
まてあやまればなり轉軫こく
なり

⑤

一論議といふ言天名のなり
何ぞといふは福のなるまじき論議
なりて何ぞかきなりてはま
め論議は儒家のれなり釋奠の

後にあるなり

⑥

一講師のするはらの世の海釈なり
講師のするはらの世の論議なる
海釈のなりと相よえといひ習
はるは講師と皆論議をするは儒
教の古礼のなりなり異國まで
も安んずるは海の子と云はるなり

の故実ハ唐都より傳へられハ異國
子饒さるる事もなり

一古の詞を多く田舎に辨じ里都等の
の地は時代のちやり詞といふ
おひゝおひゝ生来ゝる地みな
おひゝゆゝ田舎人にかゝるを
てむうゝを何ゝゝめぬちのまけ

比田舎人も都に來て時の詞
を習ひはゆきて田舎の詞もよ
みかゝりゝりといふに
ゝるなり

一かゝるの幡なハ盛旗とさす
何者ハ幡なといふゝり
かふちのかゝる

一 業平と神といふは、なり平といふ相
 撲取をまつれるなりしに、大形在
 ち中將よりぬ
 一 は、衣系、衣ゆるさるる僧を官
 一 といふといふ、盲なるるに衣
 とゆるされしに、も皆平僧なり
 平僧なりし、もなるるに、徳とたう

◎

も、なりしに、連るに、儒家の教とれ
 共僧家より、みせしに、
 一 女邦に冠婚喪祭の礼なり、阿る
 不改めしに、儒なるに、ち記り
 定めしに、五者、此師なるに、
 一 との似り、困るに、位牌、儒家の制
 なり、昭の年典、子や首の式、と

の儒者ハ此礼の法をさる程朱の
 法めて古礼ニ能く其の神聖の制
 なく穿鑿するも亦明く其の
 するなりまして世祿の國は利
 かつて其のなるなり

一 壬午中岑の墓に細板のありて其
 文字より中岑の墓なりといふ事

此よりいふ事も墓法を以てする
 一 嘗て使きて其の久しきよりたふ
 毎

一 巡礼行人などのきこるおの哀經
 の遺制なり父母の菩提のつめ
 り喪服の内は歌音大日を祀せる
 ゆゑ哀經と看たりいづは後と喪

一 礼して親音大目とれる服を
 なれとゆゆとちいひ襦の字
 とよえ遠くより
 一 振鈴とる人をもむいふとる
 形似るものよえ遠くより
 一 つい日の形なり入部の異なり
 王の形おとるくわくのと

◎

かけをぬかすにの字なりふ
 せふた欠く多いたは者な
 王として假名の文字は日本紀
 系集なり古来用ゐる
 空まゐるあ
 一 かかすひらかなり後子
 まゐるおなりかかす吉備

らわちいさあといふんは
片假名いさ倅なりひさかき
へさうこみいさ倅

一 烏帽子ハ弁の遺制なり朝鮮よ
り傳る一折風といふ朝鮮
よといふ名なり倅經子側弁
いさひらを横りてうさる

といふの烏帽子をかゝるや
なり

一 中臣祓禊代の詞なるといふ
いさもある一禊代の詞は倅を
まゝぬといふはかゝり母さ
ねやる深といふはすといふ
詞ハ犯
其の字より起ると明なり黒

一ムにハ郡なりきんハ君なりこちをこ
ハ南なりハ西なりこちにもハ
其教なり日ハ火なり月ハ土三

なりける坏酒月めとある一朝鮮
より熊浦と云ふかいそよむはハ
ちもの精やるなり倭俗のちめハ
倭俗朝鮮の精やる多かり
一日本紀の正史に後世よりつけ
る多し申食國政大夫とけふのま
つりとめうすまうちきん定めたる

八古ちのれいこくかくむつりき官
 名い何ら一大夫をまうちきんそ
 いふまつりあつ君をいふるある
 せかきちたういきいにくる一
 きふたいふいよんるある一太
 子とんこすめんこちを初すれそ
 とい皇子と子そ表別ち一是もき

たい一といひるある一神功應
 神よるまを海土のは来るそ
 海神も海字もそくは傳りりる
 魚一

一尾はういふ山迹をきて和州の
 るちの皇神武帝和州を都一たま
 ひ一よる大八洲の熱名をちの皇大

和^レの^レい^レは^レと^レ大^レハ^レ洲^レの^レお^レろ^レる^レを^レ
帝^レ都^レな^レれ^レ山^レ迹^レの^レ久^レ字^レを^レ用^レか^レり^レ
その^レち^レめ^レた^レの^レお^レろ^レる^レを^レい^レふ^レ
と^レ異^レ國^レと^レ倭^レぬ^レ國^レと^レ久^レ字^レを^レつ^レき^レ
り^レ倭^レと^レ和^レを^レか^レか^レつ^レる^レハ^レ美^レ名^レ
と^レお^レろ^レる^レち^レり^レ桓^レ武^レ帝^レよ^レり^レ後^レハ^レ
帝^レ都^レと^レ何^レら^レぬ^レり^レ大^レ和^レの^レ名^レを^レ

改^レめ^レぬ^レハ^レ誤^レなり^レた^レの^レこ^レろ^レを^レと^レ
淡^レ路^レ島^レち^レり^レと^レい^レふ^レも^レ誤^レなり^レた^レの^レ
こ^レろ^レ島^レと^レい^レふ^レハ^レ男^レ子^レ島^レと^レい^レふ^レ
る^レち^レり^レろ^レハ^レ神^レろ^レも^レ神^レろ^レえ^レ山^レを^レ
の^レと^レろ^レの^レか^レえ^レる^レの^レ類^レと^レて^レ助^レ
け^レなり^レと^レき^レは^レは^レと^レい^レふ^レも^レ欽^レ明^レ
帝^レの^レ都^レの^レ名^レを^レ大^レハ^レ洲^レと^レい^レふ^レから

ちあつるなり

一 らいしやう藤といひお改つてのそ
の藤のやうと侍も是らいしやう
お改といふくはき及理もと
なる子細もなりなり
一 大将を圍取といふるは古ハ軍圍
といふるの阿まといふはなるなり

一 武由宿祿う三百歳ハ数代同名な
る一三韓を威服するなり
一 舟度滑稽の男なりむさう一城
をいつもするといふ舟の字をかゝる
なるよりなるなり
一 けらゐの家隸なるなり
一 らうもいふその名を数ゆる名なる

一 下臺のふりめありていふるなり
此とていふるなり
一 武彦國にのりて牧の長と別ありと
云ふなり
井井坂別ありて職なりと
一 比くた山といふ常盤山といふ
ふなり松とよめるも常盤の

縁なりひとちと常陸とかくもい
山とよめりひとちといふ名目
見の記合なりかえ合てきなり
き記してちなり東人の伝なり
國名と文字と訓との別ある大
和近江常陸なり
一 三帳といふお村といふ名あり國帳

そかく画し民部省の図帳より
る者

一過所三溪の切はまり三溪の切を
持つる形を過所記よりよきと
いふ名えかり殊多し

一上總はかんつとさ下總はちのつふ
さや安房もふとさいの字を用ひ

古の扶桑國なるべし下野國は
くろともさといふ所阿多子出ぬり
えくろの山有古の建武國なるふ
や

一上總國の内本納まりの所有と
側り法目といふ村も本納り橋の
祠あり橋媛を祭れるなりある

形如子山り中よるき木名て橋
子めどるとい折るやうりさく
橋暖の紫給る船が浦よや
うりそ故きの云傳るなり本納ハ
帆丘なる下は目ハ帆埋なる下
一江戸水戸坂戸まうではくぞと戸
花川戸なりと地名よ多一戸口子

よりての名なる下
一大峰の後鬼お鬼ハ紀氏の人なる
下は木といふも紀氏なる下
終ハすの下たのさなる下
一田中大石田口三枝山道巨勢服部
石川滋野なりと類苗字なり共姓
なる下は内家所名の類も阿なる下

ハ別子姓を求むる倭子なり
 一伊勢物語いふのくを伝ふる相
 なりるのちなる論すからす
 抄抄のやあるりて歌のくを
 そかへいふをきぬ人のする
 なり

一古くの序はまゐの序をいふ

て後子るれかよつてかゝの序
 とれくする久の体格かゝの文
 章よりあらす

一昔あ物語家後記つるちまお
 ちれも時代をいふ太平記をよ
 いかのおく家田家の代になりて
 文の体も一変せり

一題。詠といふ。いゝてきて和歌。花
とろへり

一火の用。つもよ。あひひ。あう。と
いふ。之。本。鈴。文。轉。も。拍。子。木
も。火。危。木。なり

一詠。詠。を。清。の。文。と。い。ふ。を。文。轉。も
誤。て。う。る。詠。詠。文。と。点。を。つ。け。る。を

それ。よ。ま。し。て。世。の。人。詠。詠。文。と。い
ふ。之。を。思。つ。る。詠。詠。文。は。讀。經。の。の。と
偈。に。讀。經。と。て。給。り。し。を。清。の
を。り。偈。詠。よ。ま。し。て。つ。う。た。文。なる
を。清。の。字。と。う。る。を。よ。く。遠。へ。ん
て。又。除。き。て。偈。の。作。る。る。に。し。る
は。偈。詠。文。音。に。なり。て。え。は。くら。ふ

僧とて作らせしなる一と
のあまもくも洞備かきしる布施のえ
と談家師の抱きする洞家ののこ
なる一

〇〇

一延喜帝と聖人なりといふを子
越するも洞なりといふを志
らく延喜の聖代かきしる文

と誤るも一なる一

一越後朱の洞にかきしるを
うふ古雅なるといふかきしる
詩經の洞も是るはるしと思ひる
子孫楊南なる洞を作し
るや一さといふ人といふ一聖人
の及ぶとる人かきしる

さるやとすむおひな

一 此ハ穀なり秋ハ飽なり夏ハ阿つ
きなり冬ハひやふと辛ハ輕なり
甘ハ重なり酸ハ清なり苦ハ濁なり
一 此ハ水なり其ハ句ノ字をかくり
人音通すれは後をて其ハ句そ
め遠なる中ノ有ハ昔ノ博士

どもが珍しきなり思ひて誤るつ
くさなる一弱も其も通すれ
とも異國のあはれ其の字はまれな
里穴ハ肉の古字なり其ハ福ハ
かぬるなるにけりなりハ常用と
なるる類を思ひ合やぬ
一 此ハ水なり其ハ句ノ字をかくり

道なるを相親法をまゝして
御法を加へるなり陰陽五行を
いふ性理をまゝしてなる神は
すなわち王たるといふを
是れものけるに神なるを
ハカシなるよりあれも王たる神
たりよめてこそ三代の古

をきくさる人はいさうひいさる。

一 檄夷ハ國の名子阿らす人の種類
なり國栖土蛇蛛皆なり集
人そしも種類なり
一 阿サ蘇ハ熊龍なる一肥後國琉
球
一 楚郡ハ今舊城なる一陸奥ハ

うのむくちるまはるは又陸の字
につきてむつの國もいふま
まづきて名の結やるも常のる
なり

一檜垣の姫集ふきのたんとい
るふはの大貳なるなり

一職人歌合ふん大をさる人の

ろていせよといふる者れを
又そころてんそなるなり

一お名も漢語より来る何事但
織をさるなりといふはなる

おるといふるも漢語につけ

るお名なる

一これたるまあやたるはこれ

織あやもふねなりくれは呉
なりあやハ漢なり東漢なりも
阿つまのあやこよむろ物國のこ
よりいふある一服部もふねなり
さいふなり

一かつうとハ借部子田中おなり
延喜式にふもふねもたぢハえ

さるもや

一ちうくさのかもふねハ七種の穀
と粥にするなり七部のふねといふ
もふねも同ハ阿やまもちなり
一つがふねといふハそのふねするもの
帯ももこうでつづふにふするふ
なり

一 ちろちろなくとられなくさひあ
甲斐の國の郷情なるさひあとも
ま江國のものハ九つとせむつと
いふとえたるいづれ
一 ちろちろなくとられなくさひあ

もいなりいうつちかくつちく
 みのさつちけみうつちそつ
 こやふつこのはいなり
 一悔とつこもりそいふもつもころそ
 いふもむなつこもりは月隠なり
 ありくの泊瀬をこのあめりえ
 のりハ月死なりついでハ

一 之なりぬちつまいえちつまなり

一 日本紀に漢文の和語をつけら
おたり全き和語といふ所を
さあしく官名なるもの訓はむ
うかひひるまあらま官名
いてきて後阿らるり和語を
く

まゐるなり

一 字訓傳ハこゝ邦の釋名なり新
久古より傳れるにハ何らま
劉熙の作するなり明の魏在渠
六書精蘊を作し其異國を
ふるを好める人何り
一 社在地をさうひてちまてハ

比神の氏子なりやといふハ神封の
 地なる一ノ後ハ封戸なる又神お
 もろのまゝをいひていふハそれ
 ゆゑにやれをみ人も神も
 いまに地を領するなる一ノされ
 とも神いふのなきハいふなりや

南留別志卷之一 終

徂徠先生南留別志卷之二



門人 南總 宇惠 校訂

一ある人ハ南天燭なり田舎の人を
 ぶぢりといふ又ある人ハいふ人
 何れハ種画譜より南天竹といふ
 かも尾海ともいふなり通ふなる

一 不撮をいーすまそいふハ摺の字
浮ゆるなりー

一 際々女の稱なり狂う子鬼の
むすめをよびておごるゝいふ
も奥州まぐいふなり

一 うつりや盛んもはより梅の花
阿うかぬあをつけゝああると

いふ菱あ乃いふまのさ時より
孫のまゝいふ職人歌合に阿こよ
うぶめくあよまかあり阿こまは
乳母のまなり上徳國一まといふ
阿こなり一併曹司の城なりといふ
まあ介乳母子はあこる子なり
あすまはうむまこなり

一 法務の執行後寛吉野の執り岩
菊丸あり執りとはる務を執行の
傍の妻帯より子孫を傳へる
いふ言ひあるも阿るなる魚一

一 知をともむよむハ新知舊知知已
なるものなり周をちかよむハ
周親の義く治をたむとよむハ

聖の美なり昌をまゐるよむハ
ハれ安國の昌言をほり昌富やとい
ふより出り光をみけよむと光
充やより出り孝をこゝとよむハ
安國の孝經序に孝者人之高行と
いふより出り

一 せうつとよむハかゝる能なる一

一ニとつぐニとるつとをもうと
ともしとよむ伍の字と通するゆゑ
なり

一置とあらぬといふ何ものつと
る訓なり

一宅とやけといふ家とやうといふ音訓
とるつとをいふも何なり

一義絶といふ夫婦君臣不の詞
ちのや父子子母のハ大さなる誤
なり

一竊寵をにふひつとよむるハ何なる
つとをいふやゆゑの誤なるなり
つとをいふ

一君子とまめいといふ伊勢お徳

一 子つぎこれハ関雎子かきりての
 一 なる一ハ外の子ハおぬぬ一
 一 関々ハ新のお和するなりやち
 一 きなむるといふをあるなり
 一 ちまかふるなり一
 一 すあらきもみうと回一となり
 一 帝の字にけけるハ和語子みまう

一 せんまはさもある一 藩修子かな
 一 つせんまはちあるなり一
 一 王とおもえんといハ大君のまな
 一 れと子のなる一 首城の王
 一 なハ藩修を用なる後の詞なる
 一 一
 一 一 水きり人といハ掃部もなり

といひるはむうよりいひるなる
一民部をこのつうに兵部をつ
かすつうにやうあるは後
つくる訓なりけやうある類はむ
うも、をた歌あも用あす物修
あかす何のこあまをわむう
あやいふう久遠なまをむ
ま

よえらとまひて宣賢朝臣な
よちやうあるまやちあも
無但々惟ていあやいひある
後のるなる

一朝臣をこのつうに朝廷の臣を
いふうに漢語をまうり後
み初初をける時う朝夕のこを

かりてあさむしのふーまてあ
るんまよるるあり

一片假名のスハ数の字なりや
画ひーにふふふとふれい
の字の半体なりを便とす
まゝなり
なり

けーまゝなり

ちーまゝなり

なゝんまゝなり

ふー

一文字ハ所の半体なり

一文字ハこの字なり

一文字ハこの字なり

人片假名のことも事体と思つり
ひのちをふとあるひなるまかち
ひのちをいふりゝたゝめを
ぬるに真字を略してかきしるより
木のつゝらに出来けるなりき
今むの抄おかしきかけの
るゆきと昔の人のかきしるより
あを

ちくろんそくたぐそくはき
やうに思ふるのくに
ぬちなるゆ

一嬰羽嬰あふゝいふりハ野
部高かきしるまをれ里
おまかきてあれハ古ハ
用かきしるまをれ里

刻およそをなつてゐるなる一
一の節はあまの調にみこお
せしう四つにふの抱なりを
おまのあま中絶てあつた
かゆりこれ越す一つする
人ハみそがかけるところある
アマ思ひる

一 琵琶の風色調返風色個のき
一 橋を人よるまにきる人な
かりと胡弓をぬ縁のかま
きるをいひるおほの文を
かくてかきたるあま一
思ひるはみそがかけるところ
かりてゐるに我れをかりる

子や露も遠いす又古ハ樂の烟
也歌の烟也六ハあて阿ソて
阿音ハ阿もさる一ハッ松一
をかりぬふも五烟の名松
琵琶の曲ハ松を一かぬをん
ていよくさねのひささめぬを
にむまれ七聲上のまーらいを

さされハ爰松の道の松くあう松
るもさるももひつかり
習ひるるもて松ぬもむ
小いさハも遠いなるを一馬
なるもあてのこもまいて
聖徳の人の上よていすよる
古の礼樂も松こさハ松こはる

や

一 牙をきいやくするに違ひを
けきするなる一 豆利の学校
は就る易の點に猪牙をぬの
きやくせりとの世傳ふもさ
いなり

一 近あるやる琴をたのうに

みきのやうなる物のすまうえぬ
とよえくするは催るものやう
なるおなり催るものも一 笛
のきのつきるをうかぬは秋風
おなり古いつぬのあやもか
何うく一 詞をつきりそるめ
あつうぬすくわくするや何う

まゝは、此島の人々も之を
一、氏姓を云れ、痛は、ササ、
る、す、ち、大形、
一、る、ち、なり、
く、の、一、鬼、を、
は、
一、能、龍、え、
木、る、
一、

一、紀の國、木、の、國、なり、木、る、
國、も、材、木、の、出、る、
一、え、
一、部、より、
外、の、
る、
一、わ、

の持もさるるさるるさるるさるるさるるさるる
温子焼酒なりまゝ又多々酒を
の枝まゝ他ふなりまゝ大さなる
酒なり

①
ひやうとすいたのかざりまゝ穴
なりかゝると穴を鑄矢を箭の
行きのかゝり何よりいふなり

ひやうと射きなりまゝ穴の
類を金無破の破或は凡破なり
なりすゝ酒なり

一 竿のすがきいふづかきなり
るくちやがきなり射るなり
一 土居の橋を継橋といふ継を
とよむゆゑなるなり

一 下総國の國府是より示る所柳を
わしたるは車塚も法王の塚と云
のふりいひ習しやるい道後なる一
甲斐國も法王の嶽者法王の流し
流してけふものなり都を記ある也
いふ是も國人なる一
一 岸和田岩和田佐川田など地名あり

ぶるいは曲の字なる一 海川の
まかりあなり
一 甲斐の國といふ峡の字なる一
焼岩とかきるハ磐をなる一
一 かしらひひるの音の轉せるなり
むらゝゝの轉せるなりやつゝいよ
つの轉せるなりいつゝなりつゝいづれ

あると、いふなりあるのつはあら
あらうのあらなるーと、もうもはら
のつやるなりはらまはつてふりて
算やあらうてーとするなり

一山の屈む川はつるといふ理學者
の談なり

[illegible]

ハ
チ
ル
キ
ナ
リ
青
ハ
阿
ヒ
キ
ナ
リ
黄

一とのま状に大芝居をいひあそぶの者
ハ法帖の語なり

一 小児の糞無意をみるはこゝろの一日中
 起りいざりするをいざねする
 大便するをいざねする

よりけるなるー
 ーとのをよめらうとにいめのさる
 ーとをよめらうとするさういふ
 とをよめらうとするさう
 ーといふとをよめらうとするさう
 なるなるー古くいふとをよめ
 なるーとをよめらうとするさう

何のいさや異國かと双草とていふ
るもの

一毒をぶすといふ附子なり田舎より
草烏頭をよどろりそあといふ瘡
なるとすりての毒すれは志り絶
入るを呼もひて振夷なるの毒箭
も草烏頭とすまて付るなり武

備き製法なる

一いひの時昆布の切極よいきまじマ
いそのをかゝるのまじはあまといふ
公はかゝ一匹まじなる一ニ端の
布といふよつねてあのと一
よりまきくねまじる形なり夫婦
といふなる一

一 古く子と白と、いひて玄と玉と
いふといふといふと子のなり
火馬のたれのとまりあるや
一 睥とよと一 腎とむと一 肺とく
くといふ何なり本つくるや
膽といふは胃と誤れるなり
一 焔とそふといふは飛報の心なる

一 野さの遠といふ焔とあり
うつて遠近の里数をあるは
る一ありうつて遠近をある

算家の術なり

一 追捕使といふ官古く國々あり伴
の系國にゆ兼参河國の追捕使と
なるなりあるなりハ新也追捕

使^レてい^レる^レい^レい^レい^レ出^レま^レき^レなり
一 芭蕉とてやとてかき紀世名雄と数
昭々かくとてんきハ蕭宵の韻の字を
古くのかたハ用かたのゆえなり
東の韻陽唐の韻なくハなる音喉
よりゆえのかたハ用かたなる
一 看家の韻尤の韻い^レのかた

勿論なり
一成とてとてよむ^レハ山の^レかたなる
と一成二成とてより出^レるなる
一 後とてとてよむ後逸の^レか
なる一 賢とてとてハ質の字
とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて

けりて形の似るまで通り
うろてもあつて
一和をからゝよむにかつるさなる
一くろくの代はけり出るおひめ
何てぬなり福よりいさめる
あれもみまよかきく一差別
侍烏帽子大小かゝるさき
た

ち大刀なきあつたなりかゝる
なちいさかゝるな上下の海なり
一室留置の類を邦に傳ふるハ
唐郭の制なり明郭の差よりハ形
うたは大きなりお籍も宋板の本ハ
なも大きなり字の大ききも錢
なり尺ハ変りて一節切なる也

さきのかちを大かゝかくのこし
一虎をもらひ羊をひつゝといふ
は國子ちをもちぬれぬ多何るま
やうなりくらゐ新鮮なりといふ
さもある下ひけしと異國の相
なるまや名ぬきまといふにまた
刻えぬをつけておのこをとりぬ

よりいふてゐる異國の故りなるま
よりさきよりなるまをあらわす
より歌をいひてはくむつゝも
なり何もの作をいつゐるなり
ら
一とあるに詩をたに悔やまといふ
吾邦に何るぬきしとも和名なり

後語を引たり

一 きくきくちがうきくたにきくめりて

皆後傳これハ明傳より和木香

いふもや

一 いふハはる國とたうとするハ

頗るいふる何るも急なりとの事國ハ

虚文なり

⑤

一 姓何りて名をなまハ京貴の人なり

一 とのむは名を姓ふさしむハ

きあり姓のきぬぬ人何るも急なり

一 仁とひとすこ義とすこも人も

宜也といふ訓はさうくもなる

一 礼といふも孝といふまひとも恭

さうやうといふもお通するやうなり

されも礼と孝との訓あり
一は志むるに由はしむるなり
なりつちめよといふなり
はか

一 青牛子度大洋海とけるらあ
さるねや仙の字子訓なりやあひ
といふはあてつけるなりとも

ぬいぬきぬきなる人あといふはさう
なり

一ツんてんまふ皮は、庶帝座といふ
國よといつかんてやまよむいに
一の印はなる一

一 舊より紀子のやうな國名は百四十年に
あるたに郡といふなりを度

の字子習るるを張大する人なる
一されも國の字の字を張る
て州の字の字をせり異國する
一統なりも國を思ふ國の字を國
なる語をさるる文字ははる
思ふなり

一能の相るの字何くいふ大和物語

のまわづ原平軍物語のそ竹る
竹るお物語のわかい浅草の親
音をとり何き一濱成竹成を
古いやしきその名大形おそ
つまらぬを思ふ
一鎌倉の時より進士といふ
有しや日蓮のゆをなするお

う進士太郎といふ人の名有進士
の子なるべし

一度牒といふおも鍾食の比まう有
一なり

一乃、何らと補院あり、音あてよ
そ、に、い、う、と、い、ふ、を、日、光、と、か、き、替、
う、と、え、れ、た、う、の、地、を、い、う、か、

乃、か、き、替、れ、ぬ、る、所、

一との陰陽師なるものする八卦のうら
か、え、系、房、の、法、を、全、出、さ、り

一唐とかりとよむハ朝鮮の何より
子加羅といふ國何よりなり異國
よ、定、日、本、國、王、に、謁、ひ、都、督、軍、
の、友、子、任、那、加、羅、な、り、か、

ていつりさうめて吾邦り通一
るゆゑ異國人のふと後ふはみ
なかりとさるなまじ一
一兵とといふハ市の友なり今も尺也
東百友といふハ誤なり
一梅とさめ馬とさるは誤なり
ふハ農おなり日本紀の月も梅を

めのかな馬とさるのかちなりぬる
もけいられなり
一牛とさる假なりハ唐より
来れるなり
一葵丘とさる詐偽とさる原
氏とさる一変化とせん
いふやうなるをかくしう漢

かゝるいつれのをよりのものなる
あや袍のひつをききてとのけを
いふまづきもいふやうなるを
あの人出る代なる

一遠傳といふ古の次の遺制なり
常より衣冠くる代もはか
おなくていふる

一倅とせられよむ周礼の國倅の
字なる

一曲礼をくらしよむるより
のよんやちを元禄の比よ
るまよりいふ所の黒瀬子通へ
るを倅ひるなる孝徳を
けうくといひてもいふより

かゝきやう人多くいり
一降き魚の雷をさくるおなりあま
やうれ下の方のうへへさすがりいふ
是地こもる煙をいふすめい
うく白くなるなり是をも一回は
よき獲をいふいふいふいふ
るといふは雷のおつるにあらむ

るなりなり

一秋風のふくもあまめく
おのふいりすきおひり櫻葉
なる歌なり
一このまくなつたのうみいめ
とちり夫妻あそびするなりま
えいといふ詞とも田舎めめづす

まいつなり

一田舎の女ハ木綿のひとある物を帯
一上より下まで礼服する古の
ふうもきなりこのいふなる一ス
たもきをするを礼儀とする職
人衆なりこの後を能のわざ
かかふすこのいや一き女の

装束なる一桂姫といふものも
一らをゆきぬきもまゝといふ
なり

一後のまにひきいける物ハあまて
らなり人きむもきなりといふ
きしも刀なり
一なる恵美押勝といふに姓を二つ

かきこゝるなり何れの王城内又安
藤といふも回一するなり小川の系
國の由は小の垣をなすてなるの
孝康字をかきこゝるなり昔の
王

一假名けいみの又字といふ昔の橋なり橋
次橋内橋六あり大ハ中原なり中

に校書あり令ハ令刺なり甚ハ大
神なり移は神系系國子あり
勘ハ若原なり大ハ大江なり弥ハ
小野なり小の系國子小野太野大
事つゝいふ有る字孫ハのむきも
代ハ弥の字とく清ハ清原なり
伴ハ大伴ハ才ハ南部なり其ハ惟宗

なり幸ハ高階なり幸ハ紀なり長
ハ長官部なり長兵部宣連阿
けハ押クニシク

一鬼一法眼ハ紀一なる

一と時の女の名ハ太子妃の杉妻始
なり

一今子陰陽師ハ位七位なり呪禁

師針師某園師ハ位八位なり按摩
師算師ハ位ハ位なり書師挑文師
ハ大初位なり陰物師ハ小初位なり
皆友名なり経師鑄物師なども友
名なる

一延喜式子のやゝる某種と云ハ
この世の醫術ヲ用ル所ナリ

千令ある外は秘要なるもの流なる
ア異國七宗教より醫術一変
一づり

一磯といふも磯なるアいふハ
川なり石上といふのかんともいふ
なり磯城磯長なりあといふハ
こいふなり

一土田といふハ土田事といふなり
あやなり

一國といふハ介塚目と皆いふなり
なり

一太平記に細馬といふなりありよ坂馬
といふ令と見ゆ

一あといふ長吏といふ張里の侯なる

一 下 だくろくもいふも伯樂の像
なる一

一 総指の寸一尺三寸を有るもの
あるものなり法曹至要あり
尺四寸此いふものなり
あり

一 其の朱氏何某といふ人清使子奥

州子下馬しにせしめありあき堂
の佛の目よりいふる令を人の
する何れを命ずるなり秀衡の棺
を何れとあり棺を金とかり外の
板は如きなり内の棺一重は相の
きなり秀衡の死骸いけるなり
年のなりふ十あるをたけハ中人の

すうひきとなり 髪は三寸たり
むひりひえかしのやうなるおき
梅とつめりふ百年たかりなる
に形のよきさるはけおのはやめ
るふふ泉のこけり棺はさくさく
るふやれふひつふふるさく
衡の棺の内よりまふ一ツ太刀一ツ

出むふく一國まの者もさる木
何果ふふさるなり 荒木氏ハるを
ふふりふれはれをさるふふ
ふふふふふふ奥州まふふふ
行ふふふふふふふふふふ
ふふ枕ふふのふふ枕なりふふ
まふも深紅なるふふふふふふ

でうのこくまはくそなん太刀ハ
二尺をかりつたはめおりのなりお
て三まいつたなり柄はあんの系
めしききで中じーなりさあよに
しきききり柄はあらたひきと
はーなりといふさびつてぬけす
ふつてー奇怪のおほはより

一貝は子安ひなり海螺をぞいとい
するはゆめなり貝をひきまて
一切の介虫の無きするもはゆめなり
一まうさうをゆこうといふはゆめなり
田舎の人はすめといふうとー
うるをきかぬといふもゆめといふも
るふはー



南留別志卷之二

終

1359

ヘリス
メ
チリス

